D-4

高専女子卒業生のライフコース・キャリア形成過程の実証的研究

谷口　亜紀子
津山工業高等専門学校 技術部

１．はじめに

報告者は数少ない女性技術職員として津山高専（以下、本校）に勤務している。その過程で卒業後に技術系専門職に就いた女子卒業生は比較的短期間で就労を断念するケースが多く観察されることにきづいた。また、在学中に技術系専門職への就労意欲を十分に獲得できないでいる学生も見受けられる。こうした現状は、技術系教育現場において、教育実践に際してのロールモデルの供給など女子学生に対するキャリア教育の充実が依然十分な効果をあげえていないことを反映している。

２．研究目的

報告者は 2017 年度および 2019 年度にキャリア教育を受けていない世代に対し質的研究（課題番号:17H00240、19H00038）を実施しており、調査時点で技術系専門職継続者は半数以下であることを把握している。また 2020 年度から 2022 年度にかけてキャリア教育を受けた世代に対し質的研究（課題番号: 20H00710 、21H03901、22H04023）を実施し、就職者全員が技術系専門職を継続していることを把握している。

本研究は引き続き女子学生向けキャリア教育の必要性と方法に関する基礎資料を得ることを目的として実施された。とくに、高専の女子学生にとってもっとも身近なロールモデルである女性技術職員（高専卒業者）のライフコースや各高専におけるキャリア教育のあり方を調査・分析し、課題を明確化することを目指した。

３．調査の方針

これまで獲得してきた高専女子卒業生のキャリア形成・構想上のつまづき事例や技術系専門職のロールモデル獲得成功・失敗事例をもとに、卒業後約 10 年以内の女性卒業者を対象とした調査を実施した。調査はキャリアの見通しや現状についての聞き取り調査であり、調査者と調査対象者の対話を通じて実施するという手法をとった。

並行して、他高専の女性技術職員にも自身のキャリア形成の過程やキャリア教育のあり方についてのインタビューを実施した。

４．聞き取り調査

調査は卒業生 5 名、他高専女性技術職員 2 名に対して実施した。卒業生のインタビュー当時の卒業経過年、居住地、卒業後の進路は表 1～3 の通りである。

表 1　卒業後経過年

卒業経過年	人数
1 年以内	0
～5 年	1
～10 年	4

表 2　居住地

居住地	人数
岡山	2
関西	2
関東	1

表 3　卒業後の進路

進路	人数
進学	1
就職	4

学生時に受けたキャリア教育について尋ねたところ、先輩講演や OG 座談会・企業説明会への参加が

が挙げられた。しかし、3 人の調査対象者が受けた記憶がないと回答しており、キャリア教育のあり方や方法を考える必要性があると考えられる。キャリア教育を受けたと回答した調査対象者からは「自分はエンジニアには向いていないと感じた」「子どもをもっても働き続けられると思った」など、自分の将来を選択する材料となったり、子どもを持ちながら働くイメージを持てたりと受けて良かったといった意見があった。

他高専女性技術職員に女子学生の様子を尋ねたところ、「恋愛に関する考え方が大丈夫か心配になる学生がいる」「女子学生が少ないのに分裂している様子を見て心配になる」といった印象が述べられた。「女子学生の将来に何を期待するか」といった質問に対しては「学生時代にしかできないことを沢山経験して、将来は楽しい人生を過ごしてほしい」「社会に出てから転職もできるし、広く人生を生きてほしい」などの回答があった。

5．考察

高専卒業時に就職を選択した調査対象者は、調査時点で 3 名が初職を継続していた。また進学した 1 名および別業種へ転職後再度技術系専門職に復職した 1 名を含めて、全員が技術系専門職に就いている。特にキャリア教育を受け「子を持ちながら働くイメージを持てた」と回答した調査対象者は、実際に産休・育休を経て現在も初職である技術系専門職を継続している。ここにキャリア教育の影響を感じることができた。「在学時に受けたかったキャリア教育にはどのようなものがあったか」という問いには、「色々な立場の人の話をたくさん聞きたい」といった直接話を聞ける場の提供を望む声が多く、自分の将来をより具体的にイメージしたいという強い意思が感じられた。

また調査対象者のうち 2 名は既婚、未婚の 1 名は結婚を望んでおり、そのうち子を持たない 2 名は出産を希望しており、出産後は仕事を退職したいと回答があった。この 2 名はロールモデルに母親を挙げており、彼女たちの母親は仕事をしていたものの自分たちは家庭に入りたいという意見だった。また結婚を望まない 2 名は子を持たない人生を歩みたい意志があり、それゆえ結婚も出産も望まないということだった。この 2 名と既婚者で子を持っている 1 名のロールモデルは母親ではなく、学生時代の教職員や上司など自分に似た環境で仕事をしている人物をロールモデルとして意識していた。

6．津山高専での満足度

調査対象者は、今の仕事の基盤となる知識やスキルのみでなく、人との出会いや関わり方などその後の自分の人格形成や仕事への意識など本校での被教育経験やそのライフコースにおける意義に対し、高い満足度を示していた。これは教職員と距離が近いこと、学生生活の自律度や自由度の高さ、幅広い年齢層が在籍する課外活動での経験など、高専の特長が要因であると考えられる。

7．今後に向けて

このような聞き取り調査を長期的・継続的に実施し、技術者養成教育の基礎資料として蓄積する必要があると考えられる。卒業後 10 年以内の調査対象者はライフコースが目まぐるしく変化する年代でもあり、調査後 5 年後・10 年後といった聞き取り調査も実施しマイルストーン的な役割を果たしたいとも考えている。

また女性を取り巻く環境や法律も日々変化しているため、それに伴いキャリア教育上の課題も変化していくと考えられる。また女子学生と密に接する他高専の女性技術職員との情報交換も継続したい。

謝辞

本研究は科学研究費補助金（奨励研究・課題番号：23H05016）の助成を受け実施された。